
松山市保健所・消防合同庁舎会場での

主な意見・要望・提言等

日時：令和2年2月6日（木）19時～20時30分

場所：6階 防災大会議室

第1グループ

- ①地下駐車場からの出口が危険で出にくいので対応をしてもらいたい。
- ②伊予鉄道高浜線の西衣山駅にスロープを設置してほしい。
- ③松山市は文化のまちと言われている割に子どもの医療費の無料化も遅れた。なぜ子どもにお金を使わないのか。
- ④文化のまちなので、昔のままの建物も残してもらいたい。守るところは守った上での建築を考えてもらいたい。

第2グループ

- ①道路が狭く、中央分離帯に草がたくさん生えている。交通の面だけでなく防災や景観面でも問題があると思われるので、道路をきれいに整備してほしい。特に一番古い空港通り（旧の空港通りよりも古い空港通り）は狭くて危険。
- ②道後温泉の入浴料が85歳以上は無料だったのに半額の負担を求められるようになったのはどうしてか。
- ③地域でグラウンドゴルフをするのに市の公園を利用させてもらっていてありがたい。
- ④通学路に廃屋があり危険。

第3グループ

- ①大街道はパチンコ店の数が多いと感じる。
- ②地元松山でモノづくりをしたい要望が企業にはあるにもかかわらず、住宅の問題や、広い土地がないといった理由などもあり、松山市に残りたい企業が出ざるを得ないようなことがある。

第4グループ

- ①萱町六丁目の町内会で、大型マンションが4棟もあり、約250人の人が住んでいるが、町内会に加入していないため、いろいろな情報、回覧なども回せていない。大地震などが起こった際に、避難場所などに困ると思う。

第5グループ

- ①防災対策に関連して地域の繋がりが減っている。また、松山は災害が少ないため、住民が防災を自分のこととして捉えておらず不安を感じる。

- ②西条分水が中止したが対策はしているのか。人口が減少する中、新規水源は本当に必要なのか。水は足りているのではないか。
- ③松山は住みやすいまちというが、抽象的でいま一つ実感できない。より良くしてほしい。
- ④松山に限らず全国で人口が減少している。そのような中、人口減少を想定したまちづくりが必要なのでは。
- ⑤市長は365日24時間の救急医療体制と言っているが、小児救急体制は危うく、以前1月1日に空白があったように祝日等の一部に空白時間があるので安心できるシステムを医師会だけに頼らず構築してほしい。【後日回答】

(回答)

本市では、小児科の診療について、平日、昼間の時間帯にお子さんの様子を普段からよく知っているかかりつけ医を受診することで、最も適切な医療が受けられると考えており、かかりつけ医が診療を行っていない時間帯の急な病気に備えた初期救急医療として、夜間には市急患医療センターで、休日は市医師会休日診療所で診察を行う体制が整えられています。

なお、医師会休日診療所は通常15時から夜21時まで、小児科の診療を行っていますが、祝日には日中に診療を行っている小児科がありませんので、救急当番病院で小児科が無い病院が当番の日には、朝9時から診療を行っています。

また、救急病院からの紹介患者や入院治療等が必要な患者さんへの対応を行うため、小児二次救急医療として、松山赤十字病院、県立中央病院、松山市民病院の3病院が輪番制で診療を行っており、さらに、高度な医療が必要な場合には、県立中央病院の救命救急センターにて患者さんの受け入れを行っています。

したがって、現状でも、各医療機関が連携し、365日24時間どこかの医療機関で受け入れることができる体制が整えられていますが、この体制は、市医師会や周辺郡市医師会、愛媛大学医学部、松山赤十字病院等の医療機関、周辺市町の行政などの関係者が一丸となって連携、協力していることで、実現しているものです。

急患医療センター小児科では、高齢化により開業小児科医師が減少していることから、愛媛大学医学部への寄附講座の設置や病院勤務医による出務協力の拡充に加え、小児科新規開業補助金制度を創設するなど、出務可能な小児科医師の確保に努めています。また、医療従事者の負担軽減のため、お子さんが急な病気になった際のご家庭での対処方法や救急医療を正しく利用していただくための情報について、市民への周知啓発を行っています。

今後も、これらの取り組みを継続して実施するとともに、市医師会や各医療機関等の関係者と協議を重ね、小児科医師の確保及び現在の体制堅持に向けた対策を検討してまいります。